

# 登校拒否児の指導過程

足利市立三重小学校 三島 幸子

## I 本人の概要

3年、A子。家族構成は、会社員のおとなしい父親と、しっかり者で仕事をもっている母親。A子が1年生の時生まれた妹と4人。母方の親類には、教職にたずさわっている人もいて、教育的にめぐまれた環境に育っている。妹とは年齢差があるため、いじめるとか、やきもちをやくなどということは、みられなかった。

成績は上。性格は、もとの担任の先生は、積極的で活発な子という見方をしていたが、私の受けた感じは、おとなしい控え目な品のよい子という印象だった。

## II 登校拒否に至るまで

3年になる時、クラスの編成がえがあった。5月なかばに、市内の小学生を対象にした少女合唱団の試験を受けている。同じクラスから3人受けて2人合格した。その中の1人の母親が合格の喜びを伝えるため、学校へ通知を持ってやって来た。それでA子も期待して帰宅したものと推測する。不合格の通知を受け取った翌日、風邪の理由で学校を欠席。この事が、登校拒否の直接的なきっかけとなったようと思われるが、5月末ごろから、給食を残すと先生に叱られる。クラスがえがあるので仲の良い友だちがいない。登校班がいやだ。おそらく大変だ等の理由をつけて、登校するのをいやがるようになった。

## III 登校拒否になってからの指導とその経過

子どもの様子	本人への働きかけ	家庭への働きかけ
5月28日、29日 風邪の理由で欠席	1. 児童指導係の先生に相談 (1) まず担任との関係をなめらかにする。	係の先生も家庭訪問 ・両親や祖父の考えを聞く ・子どもへの接し方などを話
6月1日 早退	・できるだけひまをみつけて家庭訪問をする。行けない時は電話をする。	し合う。 ・友だちや担任あてに手紙の返事を書かせる。
6月4日夜 母親から A子がどうしても学校へ行きたくないといっているので困っているという 電話	・行っても学校の事には触れずにただ遊ぶだけにした。 おまけつきのだ菓子 折り紙 雑誌のふろく	・登校日を約束させる。 ・A子と遊ぶ。  ※ 母は、結局いくら話し合っても担任が悪いの一点ばかり。

<p>初めのうちは表情が硬かつたが、だ菓子などを分けてくれるようになった。</p>	<p>じゃがいも掘りに誘う。      (2) 学校とのつながりをもたせるために、友だちや担任の手紙を届けて、学校の様子を知らせたり、みんなが待っていることを伝えた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと担任が面倒みてくれてもいいだろう。うちの子は今迄順調に大きく育って来た。家庭にも問題があるなどとはとんでもないことだ。</li> </ul>
<p>折り紙などほめると、たくさん折って、先生のうちの女の子に持つて行ってあげてと言つたりした。</p>	<p>※ 係の先生と担任との話し合い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭訪問した時の様子      ・登校した時の扱い方</li> </ul>
<p>4週間待っても登校する気配がない。</p>	<p>2. 登校させるために、積極的に働きかけることにする。      (1) 父親に車で送ってもらう。      (2) 朝、係の先生や担任が迎えに行く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多少無理しても連れ出すことにしたので、我慢して協力してもらうように話す。</li> </ul>
<p>登校することを約束して、高価なおもちゃを買ってもらった。</p>	<p>(3) A子の好きな友だちを迎えてやる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母親も一緒に登校し、廊下で待っていてもらう。</li> </ul>
<p>母親と一緒に登校し、2～4時間勉強して母と一緒に帰る。</p>	<p>3. クラスの雰囲気にとけこませるくふうをする。      (1) 好きな友だちと並ばせる。      (2) 国語や道徳などの教材を即興的に劇化して楽しい雰囲気を作る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・待っている間に、登校拒否児の指導事例の本を読んで、勉強していただく。</li> </ul>
<p>朝泣きながら車におしこめられて登校したことがあった。</p>	<p>(3) 時間表を変更してプールに入れる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校に登校拒否児を扱った経験のある先生がいたので、話し相手になっていただく。</li> </ul>
<p>表情は硬いが、時々にやにやしていた。</p>	<p>(4) ジャンケンやくじなどを算数教材と結びつける。</p>	<p>※ 母は、あまり無理なことをして、鉄道にでも飛び込まれたらどうしようと、心配が先にたって、気が気ではないといった状態。</p>
<p>時々、胸のあたりを引っぱって鼻の近くへもって行き、にこっと笑つたりした。</p>	<p>(5) 学級会の司会をやらせて責任を持たせる。      (6) 給食時のグループ作りをくじで決めたり、好きな友だちと組ませたりする。</p>	<p>4. よい香りのする石けんをA子と担任のたんすの中に入れ、同じ匂いのする洋服を着ることにした。</p>

<p>朝のうち、頭痛を訴えなか なか教室へ入れないこともあ った。</p>	<p>5. A子とかかわりのある先 生方に、はげましの言葉を かけていただく。</p> <p>6. 養護の先生に頭痛の手当 てをしていただいたり、話 し相手になっていただく</p> <p>7. 母親を子どもから離すこ とを考えた。</p>	<p>※ 両親や祖父母は、他校へ転 校させたい意向があった。</p>
<p>休み時間のたびに母親のそ ばへ行っていた。</p>	<p>(1) 母親にかくれてもらう</p> <p>(2) 母親は、A子より後から 下校する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昇降口、校庭、あいている 特別教室などに行って、A子 から直接見えない所にいても らう。</li> </ul>
<p>授業中も母のそばへ寄って いくことが多くなった。始業 の合図があっても、すぐ席に つけなくなった。</p>	<p>(3) 母親は校外に出てもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>友だちや担任が一緒にな って探してあげる。</li> <li>持ち物が置いてあるのを 見せて、安心させてやる。</li> <li>なぐさめてやる。</li> <li>友だちや担任が家まで送 って行く。</li> <li>家に着いた頃、母から本 人に電話を入れてもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>トイレに行っていたとか。 図書館にいた、用事があって ○○先生と話していたなど。 一緒になれなかった言いわけ をする。</li> </ul>
<p>母親の姿が見えないと泣い て探しまわる。</p>	<p>8. 夏休みに入る前に、何と かしようというあせりがあ ったため、かなり強硬策を とったので、A子も母親も 相談係の先生を嫌ってしま い、また振り出してもどつ てしまつた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談のことで市役所へ 行って来た。銀行へお金をお ろしに行って来たなどの理由 づけ。</li> <li>姿をかくす時には、自転車 手さげ等、目につく所におい て行くようにした。</li> <li>3階の資料室で親子関係診 断テストなどやってもらう。</li> </ul>
<p>友だちに送られて帰るのも 泣きながらになった。</p>	<p>(1) 家庭訪問、電話、手紙な どで連絡をとる。</p>	<p>※ 母親はノイローゼ気味</p>
<p>また欠席が続き、夏休みと なる。</p>	<p>A子と両親は、市の教育相 談に通い始める。</p>	
<p>担任との関係はよくなつた ようと思われたが、相談係の 先生をさけるようになった。</p>		

登校日は、休まず出席した。	(2) 夏休み中は、登校日の前 は渡したい物があるとか、見せたい物があると電話をする。 ◦ ペーパーフラワーのでき上がったのを見せっこしよう。 ◦ 旅行のおみやげを渡したい。 ◦ 写真を見せたい。 ◦ プールに入るから、どのくらい上達したか見せてほしい。 ◦ 先生が読んで感動した本があるので、あなたも読んでみないか。	◦ 市の相談員の先生の指導で2年の時の担任の先生や、友だちと遊ばせるようにした。時には泊めてもらう。
プールにも、あまり休まず来ていた。	(3) 担任の家へ遊びに来てもらう。 ◦ 一緒に手芸をやろう。 ◦ おいしいそばと一緒に食べよう。	* 親類に教員が多いため、母が市役所へ行ったら、教育長をはじめ、顔なじみの先生方がやさしい声をかけてくれた。相談員の先生もやさしく、ユーモアがあって、うちの子の性格によく合った指導をしてくださる先生だと言って、非常に信頼を寄せていた。
「8月がくるたびに」 「ムーミン谷の冬」 すぐには、読まなかつたようだった。	9. 朝早く、登校班の子供が出かけないうちに、学校へ行く練習をする。	◦ 親も一緒に来てもらう。 ◦ 市の相談員の先生の指導で学校へ行く練習をさせてもらう。
2学期になって3日出席しただけで欠席が続く。	(1) ランドセルを背おって玄関を出る。 (2) 家の外10mほど行く。 (3) 曲がり角まで行く。 (4) その次の曲がり角まで行く。 (5) こうして少しづつ学校に近づける。	◦ この間、家庭では、責任のある仕事を、自主的にやらせるように配慮する。 (例) お米をとぐ。 どんなに遅くなってもさいそくはしない。
登校時刻を過ぎるとA子はケロッとして元気になり、勉強したり、学校では何をしているだろうなどと、母に話しかけたりした。	(6) 目標を立てて練習をさせる。 10. 無理をしないで、母親をだんだん離すことにした。	◦ 母親を子どもから離すことには失敗だったので、父親に近
10月から母と登校		
登校しても母がないとダメだった。		

<p>母親との接し方は、以前の ようにべたべたした感じがう すれ、さらっとした感じにな てきた。</p> <p>母に「先に帰ってもいいよ 少し校庭で遊んでから帰るよ」と 言うようになった。</p> <p>11月末頃から、母は先に 帰宅するようになった。</p>	<p>(1) A子の座席の近く。 (2) 教室出入り口の近く。 (3) 廊下にいてもらう。 (4) 一つはなれた理科室にい てももらう。 (5) 給食の時は、理科室で一 緒に食べる。 (6) 昇降口にいてもらう。 (7) 校庭にいてもらう。</p>	<p>づけるようにした。</p> <p>父と一緒に風呂に入る。 犬を散歩に連れて行く。 宿題や道具調べを父親に見 てもらう。</p> <p>自転車で、学校のそばの文 房具屋まで、学用品を買いに 行く。</p> <p>父親と朝の散歩をする。 ます釣りなどに連れていっ てもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 市の相談員の先生の指導で 登校の練習を始める。</li> </ul>
<p>気の合った友だちといやが らずに練習した。</p> <p>3学期になって、母親は来 なくともすむ様になった。</p> <p>仲のよい友だちと登校し。 まだ登校班には入れない。</p> <p>3月になって間もなくある 日突然、登校班に入れた。</p> <p>本人もうれしそうに担任に 報告。</p>	<p>11. 冬休みに入って、友だ ちと学校へ行く練習をする。</p> <p>(1) 日直の先生にお願いして 昇降口の戸を全部開放して おいていただく。</p> <p>(2) 每朝登校時刻に合わせて 家を出る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 昇降口まで。</li> <li>◦ 教室の入り口まで。</li> <li>◦ 教室の中に入る。</li> <li>◦ 自分の席まで。</li> <li>◦ 席に腰をかける。</li> <li>◦ 黒板に字を書いたり、学 級文庫の本を読んだりする。</li> </ul>	<p>※ 母親の表情もいらだたしさ が消えてきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 絶えず、はげましの言葉を かける。</li> </ul>

#### IV 登校拒否を扱ってみての感想と反省

(1) A子の問題行動が、なぜもっと早く察知できなかつたか反省させられる。

問題行動の発見が早ければ早いほど、その指導は容易である。特に新しい学級を担任した時の教師は、児童1人1人をしっかりと見つめ、鋭い感受性をもって、どんなにささいな行動でも見逃すことなく、その場その場で適切な指導の手を加えることが必要である。

(2) 学級担任1人の力ではどうにもならない。幸い本校には児童指導を研究なさっている先生があり、よき相談相手として、また指導者として援助をし、協力してくださった。また、校内で行きづまつた時には、市の専門の先生のお力添えがうれしかった。

(3) 登校拒否という問題行動の要因となつたであろう家庭環境や、A子自身の個人的要因などが、

どの程度変容したかは、測り知ることはできない。他の児童と同じようななかたちで登校できるようになつたというだけで、この問題は完結したと考えてよいのであろうか。

### 評

登校拒否児童生徒が足利市内の小中学校でも増加の傾向にあり、足利市立教育研究所教育相談室で受理したものだけでも20余名に至っている。この実践記録でもわかる通り、この症状の場合、父母の心痛もさることながら、学級担任のご苦労も筆舌につくしがたいものがある。この症状が起こる原因が本人の性格、家庭の環境等多岐にわたる場合が多く、担任教師のかかりあえる場面が割合少ない。それだけに苦労も多くなるのである。さらに父母から教師に対する悪感情が増加し、登校拒否児を担任し、体験してみなければ想像もできないものも多い。その意味から、この実践記録の市内教職員に果たす役割は非常に高いものがあり、この実践がただ実践者だけの問題でなく足利市教育界への問題提起となりうるものも含んでいる。実践者も述べている通り、今後の課題として、登校拒否の予知の問題は、足利市教育界あげて研究すべき時期に立っていることを痛感する。